

作成年月日： 2019年12月 4日（Ver.1.0）

久留米大学では、受診時に患者さんから取得された試料と診療情報等を使用して下記の研究を行っています。本研究で使用される試料・診療情報等は他機関への提供は行いません。

なお、下記研究は久留米大学の倫理委員会にて「社会的に重要性が高い研究」等の特段の理由が認められ、研究機関長の承認を得て実施しています。当該試料・診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化处理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡下さい。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で試料・診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。

【研究課題名】 脂肪肝・脂肪肝炎に対して肝切除が及ぼす術後肝障害の検討

【試料・診療情報の対象者（研究対象者）】

- 1) 受診期間：2009年4月から2019年12月までの間に受診
- 2) 受診科：久留米大学病院 肝胆膵外科
- 3) 対象疾患名：肝原発腫瘍（肝内胆管癌を除く）と診断された方

【試料・診療情報等の項目】

試料：【腫瘍組織、肝臓組織（診断用既存提出組織）】

診療情報等：【病歴、診断名、年齢、性別、手術日、感染症歴、術前・術後採血結果 等】

【研究目的】

近年、B型肝炎やC型肝炎の患者様の減少に比し、非アルコール性脂肪肝炎（NASH）もしくはアルコール性脂肪肝炎（ASH）からの肝細胞癌の発がんが多く見られるようになってきています。

脂肪肝は肝切除後の肝再生を妨げるなどの報告がされていますが、今だ、明確な切除上限値は定められていません。今回、肝腫瘍の切除を行った後の組織、採血結果を用いて、脂肪肝炎症例、単純性脂肪肝例に対する肝切除が、術後肝機能に及ぼす変化をウィルス性肝炎症例と比較検討し、脂肪肝・脂肪肝炎切除の安全性を考察します。

【研究（利用）期間】 久留米大学倫理委員会承認後から2024年11月まで

【利益相反に関する事項】

本研究は特定企業からの資金援助はないため利益相反は発生しません

【問い合わせ先】

研究責任者（使用する試料・情報の管理責任者）：

久留米大学医学部外科講座 肝胆膵部門 助教 助教 野村頼子

問い合わせ担当者：久留米大学医学部 外科学講座 肝胆膵部門 助教 野村 頼子

電話：0942-31-7902（内線3541）

E-mail: nomura_yoriko@med.kurume-u.ac.jp

研究番号 19228